

大  
膳

### 1.吉川広家陣跡(西軍)

父は毛利元就の次男で小早川隆景とともに三本の矢のうちの一人の吉川元春、広家は元春の三男広家は家康率いる東軍の勝利を確信していたので、黒田長政を通じて家康に内通した。

毛利軍の布陣は、毛利秀元が南宮山の上、その下に安国寺恵瓊。恵瓊は毛利輝元が西軍総大将であることを貫くべき通すべきだという考えであったため、広家と対立西軍に加勢しようとする安国寺恵瓊や長宗我部盛親、長束正家の使者が来訪するが、広家は霧の濃さを理由に出撃を拒否した。秀元にも「これから弁当を食べる」と言って出撃を退けたと言われる。

これを指して、「宰相殿の空弁当」という言葉が生まれた。

大  
膳

### 2.長束正家陣跡(西軍)

石田三成と同じく五奉行の一人で、近江国水口岡山城主。合戦前に浅野隊と南宮大社付近で交戦し、池田輝政隊と銃撃戦を展開したが、吉川広家の妨害により、毛利秀元や長宗我部盛親らと同様に本戦に参加できなかった。戦後、松田秀宣の活躍により水口城への入城に成功したが、寄せ手の武将に本領安堵を約束されて城から出たところを欺かれ、捕縛されて切腹。享年39。

大  
膳

### 3.長宗我部盛親陣跡(西軍)

四国の覇者・長宗我部元親の四男。吉川広家の行動によって動くことができず、最終的に戦闘に参加しないまま西軍は敗退。池田輝政軍や浅野幸長軍の追撃を受けて上石津の多羅尾山に逃れ、伊賀から和泉に逃れたが、小出吉親の追撃を受けて大坂の天満に引き揚げ、土佐へ帰った。土佐では、家臣の讒言により兄・津野親忠を殺害したため、徳川家康の怒りを買って領地を没収され、改易、浪人となった。大阪夏の陣では大坂方に付き、敗北したため、京都六条河原で処刑された。享年41。

大  
膳

### 4.毛利秀元陣跡(西軍)

毛毛利元就の四男・穂井田元清の次男。西軍総大将・毛利輝元の養子であり、豊臣秀吉の朝鮮出兵(文禄・慶長の役)で活躍した。秀元自身には戦意があったとされるが、麓に布陣した吉川広家が動かなかったため参戦できず。戦後、毛利軍は無傷で退却。

いったん伊吹山に入ってから大阪へ向かい、立花宗茂や島津義弘らとともに大坂城で籠城し、家康に一矢報いるべきだと主張したが、総大将の毛利輝元はこれに応じず、9月25日に大坂城を退去。古田織部に学んだ茶人としての一面もあった。

大  
善

### 5. 烏頭坂(島津豊久奮戦の地)(西軍)

父島津四兄弟の四男・島津家久の息子。父が若くして亡くなったため、叔父である島津義弘(四兄弟の次男)に育てられた。その恩義から、関ヶ原合戦では西軍に属して参戦。戦局が不利になる中、義弘の撤退を援護するため、「捨て奸(すてがまり)」と呼ばれる戦法を取り、小部隊で敵を足止めしつつ、最後まで奮戦して戦死した。一説には、重傷を負いながらも義弘の後を追い、上石津の瑠璃光寺近くで亡くなったとも伝えられている。



### 6. 徳川家康最初陣地(東軍)

672年の壬申の乱において、大海人皇子(後の天武天皇)が野上の行宮からこの不破の地に出陣し、名産の桃を全軍に配って士気を高め、戦に勝利したという故事にちなみ、この地は「桃配山(ももくばりやま)」と呼ばれるようになった。徳川家康はその故事にならい、関ヶ原合戦の際、桃配山に最初の陣を敷いた。



### 7. 山内一豊陣跡(東軍)

父は岩倉織田氏の重臣・山内盛豊。一豊は初代土佐藩主となる人物で、豊臣秀吉および徳川家康に仕えた。関ヶ原の戦い前の「小山評定」において、率先して徳川方に従った功績により、土佐国9万8千石を与えられた。妻・千代との夫婦愛は有名で、司馬遼太郎原作の大河ドラマ『功名が辻』の主人公として描かれている。



### 8. 浅野幸長陣跡(東軍)

南宮山の毛利軍に備えるため、この地に布陣し、本戦には加わっていない。父は石田三成と同じく五奉行の一人・浅野長政であり、長政は豊臣秀吉の正室・ねねの兄。よって幸長は、ねねの義理の甥にあたる。朝鮮出兵でも活躍し、石田三成と対立した武断派の代表的存在であった。



### 9. 池田輝政陣跡(東軍)

南宮山の毛利軍に備えるため、この地に布陣し、本戦には加わっていない。

父は織田信長の乳兄弟であり重臣の池田恒興。恒興は岐阜県池田町で生まれたという説もある。輝政は美濃の池尻城(大垣市赤坂近く)、大垣城、岐阜城、三河・吉田城の城主を歴任し、のちに姫路藩の初代藩主となった。関ヶ原の前哨戦である「岐阜城の戦い」においても活躍しており、かつて自らの居城だった岐阜城を攻めることになったのは、歴史の皮肉といえるだろう。



【番外編】

牧田合戦(稲葉備中守、丸毛兵庫頭等奮戦の地)

大永5年(1525)江州小谷城主浅井亮政(長政の祖父)は、牧田に陣を構えた。

これに対して美濃国守護土岐頼芸は、栗原山に軍を進めた。

8月2日両軍は栗原、別所、橋爪、牧田付近で激戦を交えたが、勝敗のつかぬまま両軍とも引き上げてしまった。これを牧田合戦という。